

令和2年度 学校評価 自己評価書

あま市立秋竹小学校

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

学習指導要領の基本理念をふまえ、児童のすぐれた個性を伸ばし、個を生かす教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を図る。

＜めざす児童像＞

- | | |
|--------|-----------------------|
| ○ 強 く | 自他の生命を大切にし、たくましく生き抜く子 |
| ○ 正 しく | 自ら学び、正しく判断できる子 |
| ○ 明 るく | 礼儀正しく、心豊かで思いやりの心をもった子 |

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 基礎・基本の確実な定着をめざし、「わかる授業」「楽しい授業」を心がける。さらに、体験的な学習・問題解決的な学習を重視し、自ら課題をもち、学び合う力の育成に努める。また、展開を工夫し、自分事として考える道徳の授業づくりに取り組む。
- イ 異年齢集団「なかま」活動により、思いやりの心や感謝の心を育てる。また「読書の時間」の充実のために「読み聞かせ」を職員とボランティアで積極的に行う。
- ウ 外遊びを推奨し、体育的行事を計画的に実施するとともに、歯と口の健康に関する指導に取り組み、家庭の協力を得ながら正しい生活リズムづくりをはじめ基本的生活習慣の育成に努める。
- エ 「あいさつ運動」をはじめ、諸行事を通して教師が児童に寄り添うなかで、児童理解を深め、心のつながりを大切にした学級・学校づくりに取り組む。
- オ 定期的な安全点検以外にも、遊具の安全な使用方法や廊下歩行の安全指導など、安全な学校環境づくりに努める。対応マニュアルを常に見直し、避難訓練を行う。
- カ データの共有化・諸会議の効率的な運営を行うことで多忙化解消を図り、教職員が健康で充実して働けるよう努める。
- キ 学校評価や個人懇談の実施、ホームページの更新、学校通信の発行、外部講師の招聘・行事へのPTA協力等を通して、学校を地域に開き、家庭・地域との信頼関係づくりに努める。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和2年12月9日～12月18日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
- | | | | |
|------|------------|------|---------|
| ・児童 | 143名／全144名 | | |
| ・保護者 | 110名／全112名 | ・教職員 | 14名／14名 |
| | | | 計267名 |

3 調査結果[資料として添付]

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

- (1) 全体的に見て特徴的なのは、教職員においては、達成状況がA（できた）である項目は、12項目中7項目のみであり、他の項目のほとんどは達成状況がB（おおよそできた）となっている。児童の評価は、11項目中9項目の達成状況がAである。保護者においては、達成状況のAが12項目中8項目を占めており、教職員、児童、保護者の中で児童が一番A評価の割合が高い。
- (2) 児童においては、昨年度に比べ「本を読むことが好きである」が減少した。これは、新型コロナウイルス感染予防のため、読み聞かせボランティア「メルボケ」の方に来ていただく機会が減り、子どもたちに本の読み聞かせをする機会が減ったことも影響していると考えられる。ただ、朝の読書の時間の一部を学習の時間としたことで、子どもたちが朝から学習に取り組むことが定着した影響もあってか、「授業に集中して参加している」の項目の達成状況が増加している。さらに、「困ったことがあったとき、相談できる人がある」の項目で増加している。それだけ困ったり、心に悩みを抱えていたりする子どもたちが増えてきているということであり、それに伴った相談活動を進めてきた成果であると考えられる。今年度から設定し実施した「教育相談週間」も一定の成果を出していると思われる。「自分からあいさつができる」については、少し減少している。コロナ渦のため、マスクをしており、しかも大きな声が出せないため、自信をもって挨拶できない子が増えたと考えられる。

- (3) 保護者においては「学校の行事や授業参観には、できるだけ参加している」が増えて
いる。感染予防のため、様々な制約をしたにもかかわらず、ミニ運動会と12月に一度
行った授業参観には、たくさんの保護者に来ていただき、子どもたちの活躍ぶりを見て
いただけたことが、このような結果につながったと考える。逆に、今まで参観するか迷
うような行事が全て実施できなかったのも、この結果につながったことが考えられる。
「子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に相談できる」も増加した。今年度
は昨年度に比べ、保護者の皆様から相談を受けることが増えた。感染予防の点で、保護
者の皆様が迷われることが多かった影響によるものだと考えられる。ただ、保護者が来
校する機会が減ったため、学校の状況を知りたいと思われる方が増え、子どもから話を
聞くことが増え「わが子から学校であったことについて話をよく聴く」の結果が増えた
のだと考えられる。「わが子は楽しそうに学校へ通っている」も増加していることが、
とても喜ばしいことである。
- (4) 教職員の評価では、達成状況がAにならなかった項目のうち、特に低評価となっている
ものは、「児童は自分からあいさつをよくする」と「児童は授業がわかり、基礎的な
学力が身につけている」の2項目である。私達教職員一同、今年度の指導方法を振り返
り、次年度の改善に生かしていかななくてはならないと考える。

5 成果と課題

<成果>

- (1) 児童アンケート「困ったことがあったとき、相談できる人がいる」が増加しているこ
と、保護者アンケートの「子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に相談でき
る」の高評価が増加していることから、学校の相談体制が徐々に整いつつあるといえる。
これからも、児童の変化を見逃さず、より密接な関係づくりに努めていきたい。
- (2) 児童アンケート「授業に集中して参加している」が増加していることから、子どもた
ちの授業に取り組む姿勢が向上しているといえることだと思う。

<課題>

- (1) 児童アンケート「学校は楽しい」について、肯定的な評価が88パーセントから91
パーセントに増えたものの、9パーセントの児童が否定的な回答をしていることを重く
受け止める必要がある。登校しぶりをしている児童、保健室登校を必要としている児童
等、全職員で共通理解をしつつ対応し、すべての児童が「学校は楽しい」と答えられる
ような学校をめざしていくことが大切である。
- (2) 保護者アンケート「わが子は自分からあいさつをよくする」の達成状況が下がってし
まった。教職員の関連項目の結果も同様である。学校目標として掲げているにもかかわ
らず、ここ数年なかなかよい結果がでていないので、今後その取り組みについて、教職
員で検討していくことが課題である。

6 改善策

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
児童の立場に立った授業づくりができるよう、さらに授業を工夫し、個に応じた学習
を行うことができるよう教職員の研修を進めていきたい。国が進めるギガスクール構想
により、来年度から一人一台整えていただけるタブレットの活用も模索しながら、一人
一人の児童に合った教育を進めていくことができるよう努めていく。
- (2) 生徒指導体勢の充実
生活アンケートやQ U等の実施及びその活用を図るとともに、個別の教育相談を次年
度も継続し、子どもの悩みを早期に発見できるように努める。また、児童個々の悩みや
問題については、必要に応じて教職員で情報共有を図る。更に、場合によってはスクー
ルカウンセラーや教育相談センターなどの外部機関との連携も行う。
- (3) 心の教育の充実
子どもたちが自分の良いところを見つけられるようになり、本物の自信がもてるよう
にとの願いのもと、子どもたちの元気、勇気、そして感謝の気持ちを育めるようにして
いきたい。
- (4) 保護者や地域の皆様との連携を図るための情報発信
学校重点目標が保護者に十分理解されていないという点について、情報発信の内容や
あり方について再度検討する。学校だより、学年通信、HP等を活かしていろいろな情報
を地域・家庭に伝えていきたい。
- (5) あいさつのとびかう学校づくり
温かい言葉のキャッチボールが自然にできるようになる取り組みを行っていき、それ
らを通して基本的生活習慣が身に付くよう支援する。